

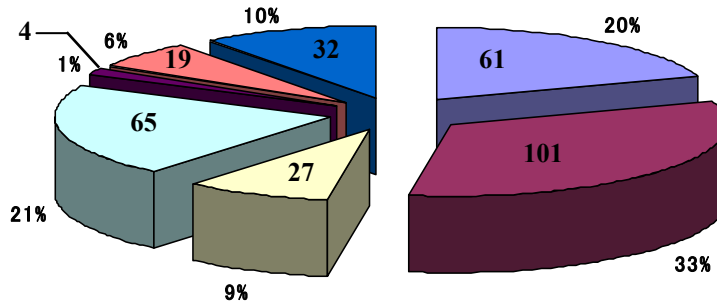
和仁会病院 回復期リハビリテーション病棟実績報告

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間に当院回復期リハビリテーション病棟に入院された患者(309例)について内容を分析したので、ここに報告します。

1. 対象者内訳 (n=309)

①疾患割合

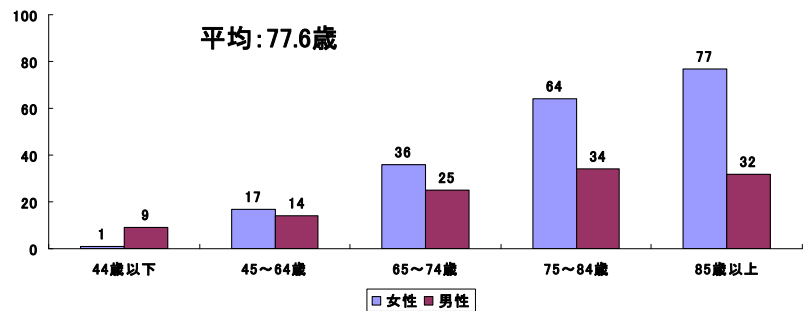
※グラフ内数字は実数を示す



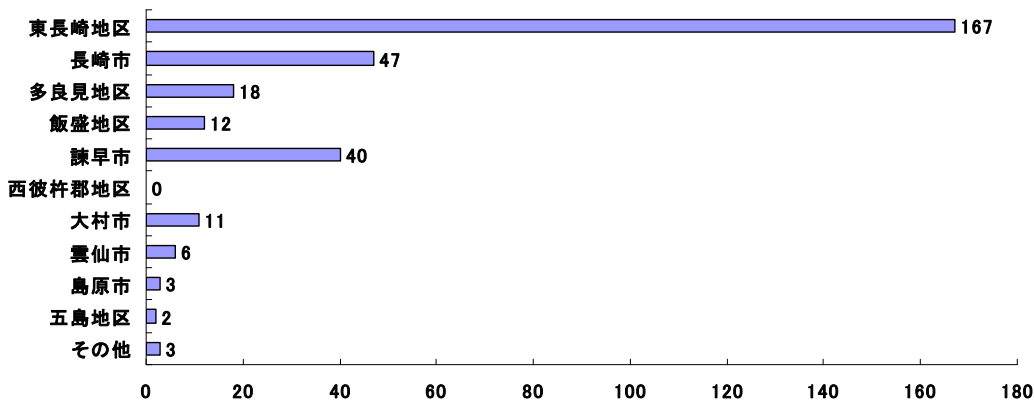
■ 脳血管疾患 ■ 股関節疾患 □ 膝関節疾患 □ 圧迫骨折 ■ 骨盤骨折 ■ 脊髄損傷 ■ その他

②年齢割合

年齢割合	女性	男性
44歳以下	1	9
45～64歳	17	14
65～74歳	36	25
75～84歳	64	34
85歳以上	77	32
合計	195	114



③ご自宅の地域



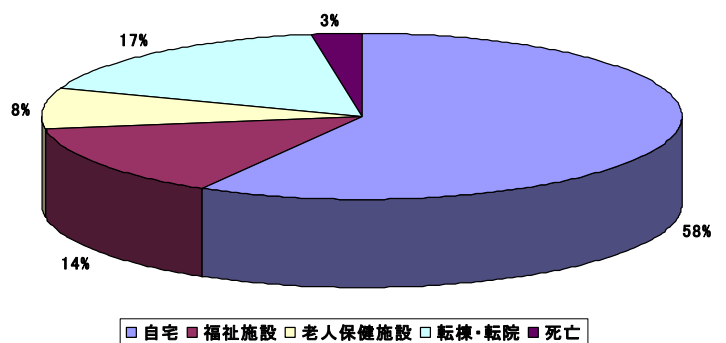
当院が東長崎地区にあることもあり、東長崎地区の方が大半を占めますが、病院周辺だけではなく、遠方からの入院もあります。状況により異なりますが、遠方からの方にも可能な限り自宅訪問を行い、その環境に合わせた目標をたて、円滑な退院が出来るようサポートしております。

退院先	人数
東長崎地区	167
長崎市	47
多良見地区	18
飯盛地区	12
諫早市	40
西彼杵郡地区	0
大村市	11
雲仙市	6
島原市	3
五島地区	2
その他	3
合計	309

2. 実績報告 (実績報告は入院中の患者を除く n=240)

①退院先

退院先	人数	割合
自宅	140	58%
福祉施設	34	14%
老人保健施設	19	8%
転棟・転院	41	17%
死亡	6	3%
合計	240	100%



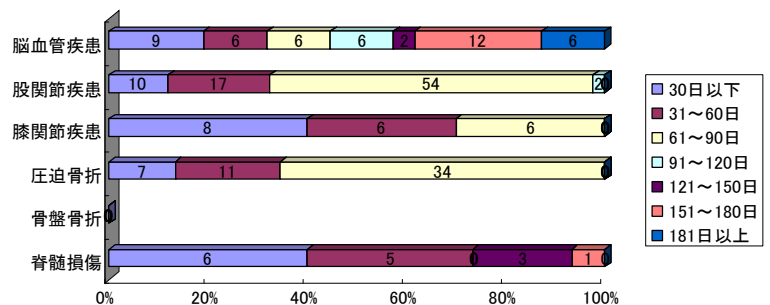
退院先は、自宅への退院が全体の58%、『在宅』扱いとなる福祉施設への退院が14%となっています。これら2つを合わせると在宅復帰率が72%という結果でした。

福祉施設にはグループホーム・有料法人ホーム・サービス付高齢者住宅・ケアハウス等が含まれます。

② 在院日数

※グラフ内数字は実数を示す

	上限日数	在宅群 平均日数	非在宅群 平均日数
脳血管疾患	150または180	105.3	112
股関節疾患	90	69.2	66.5
膝関節疾患	90	48.9	49.7
圧迫骨折	90	68.7	59
骨盤骨折	90	-	-
脊髄損傷	150	85.6	47.1



回復期リハビリテーション病棟の入院日数は、脳血管疾患で、高次脳機能障害がある場合は180日、高次脳機能障害がない場合は150日となっており、運動器疾患は90日となっています。

左の表は各疾患を在宅群と非在宅群に分け、各疾患の平均在院日数を表したものです。個人差による身体レベルや退院先の環境に応じて在院日数は異なります。

退院前には住宅改修や試験外出・外泊等を行い、退院後の生活がスムーズに送れるように環境の調整も行います。またデイサービスやデイケアなどのサービス調整や外来リハビリテーションなど退院後のサポートも行います。

当院における回復期リハビリテーション病棟は365日行っており、入院中は毎日リハビリテーションを提供しています。

※FIMとは

FIMとは、機能的自立度評価表(Functional Independence Measure)の略であり、日常生活活動を7点満点(表1)の18項目(表2)で評価したもので、全項目完全自立の場合126点、全項目完全介助の場合18点となります。

一般的に器具などを使用しての修正自立の場合6点と評価し、合計100点付近が在宅復帰の目安とされています。(各項目見守りだと90点であり、100点前後とは見守り～自立レベルとなります。)

点数	介助者	手助け	手助けの程度
7	不要	不要	自立
6	不要	不要	時間がかかる。装具や自具が必要。投棄している。安全性の配慮が必要
5	必要	不要	監視・準備・指示・促しが必要
4	必要	必要	75%以上自分で行う
3	必要	必要	50%以上75%未満自分で行う
2	必要	必要	25%以上50%未満自分で行う
1	必要	必要	25%未満しか自分で行わない

(表1)

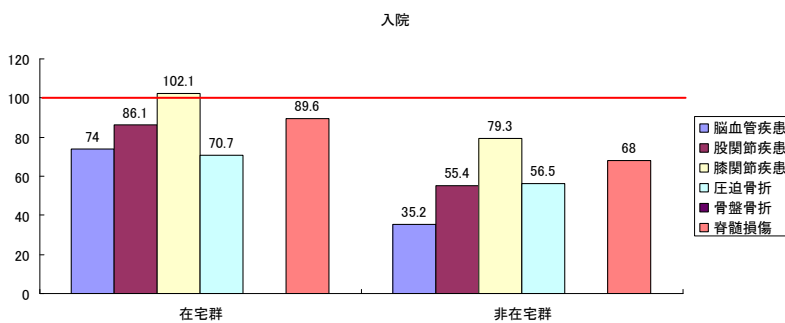
大項目	中項目	小項目
運動項目	セルフケア	①食事
		②整容
		③清拭(入浴)
		④更衣(上半身)
		⑤更衣(下半身)
		⑥トイレ動作
	排泄コントロール	⑦排尿動作
		⑧排便動作
	移乗	⑨ベッド・椅子・車椅子
		⑩トイレ
移動	⑪浴槽・シャワー	
	⑫歩行・車椅子	
	⑬階段	
認知項目	コミュニケーション	⑭理解
		⑮表出
		⑯社会的交流
	社会的認知	⑰問題解決
		⑱記憶

(表2)

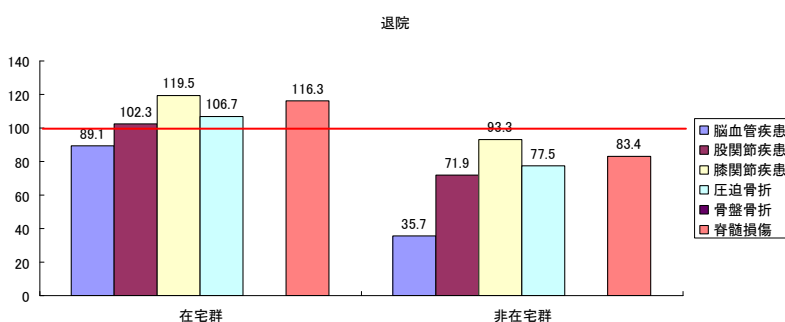
③ 当院におけるFIM指数の変化

当院の昨年度退院者240名のうち下記疾患6グループに分け、かつ急変・死亡を除く234名を対象に、在宅群・非在宅群に分けて退院時FIMの比較を行いました。

在宅群が平均106.8点で非在宅群が72.4点と大きな差が見られました。退院時FIM(グラフ2)において、非在宅群が100点未満なのに対して、在宅群ではほとんどが100点を上回る結果となっています。入院から退院までの利得(数値が高いほど改善している。)は右の表に示しております。(※FIMはあくまで一つの指標であり、退院時に100点を超えないと在宅復帰できないという訳ではありません。グラフは平均であり、退院時に100点を超えていなくても、環境やサービスの調整、家族の協力などにより在宅復帰された方も数多くおられます。)



(グラフ1)



(グラフ2)

		入院平均	退院平均	利得
在宅群	脳血管(28)	74	89.1	15.1
	股関節(67)	86.1	102.3	16.2
	膝関節(17)	102.1	119.5	17.4
	圧迫骨折(41)	70.7	106.7	36
	骨盤骨折(0)	-	-	-
	脊髄損傷(7)	89.6	116.3	26.7
	平均	84.5	106.8	22.3
非在宅群	脳血管(18)	35.2	35.7	0.5
	股関節(14)	55.4	71.9	16.5
	膝関節(3)	79.3	93.3	14
	圧迫骨折(11)	56.5	77.5	21
	骨盤骨折(0)	-	-	-
	脊髄損傷(7)	68	83.4	15.4
	平均	58.9	72.4	13.5

・()内数字は実数を示す。